

金日成主席の革命生涯と朝鮮民主主義人民共和国の対外関係

フィンランド・チュチェ思想研究会会員

タパニ・サロネン

金日成主席は、国と朝鮮人民のために自分の一生をささげました。金日成主席の一生は、対外関係を通じてよく分かります。

歴史を歪曲しようとする人たち、朝鮮民主主義人民共和国が国際関係をほとんど結んでいないと主張する人たちに、わたしは彼らが誤った見解をもっていると言いたいのです。彼らは歴史を知らないのです。

今年、われわれチュチェ思想研究者は、金日成主席の生誕 110 周年を慶祝しています。この 110 年間は、進歩的な国と人民間の国際的協力と親善に満ちています。

金日成主席の輝かしい生涯を通じて、わたしは、朝鮮民主主義人民共和国の対外関係の歴史的時期について考えるようになりました。

最初の時期は、抗日革命闘争の時期と新しい社会建設の時期です。

金日成主席は、抗日革命闘争を展開して朝鮮を解放することによって、日本帝国主義の侵略を阻止させることに寄与し、朝鮮民主主義人民共和国を創建し、対外関係の基礎をきずきあげました。

第二の時期は、勇敢な朝鮮人民がアメリカ帝国主義侵略者を打ち破った祖国解放戦争（1950－1953）の時期です。朝鮮民主主義人民共和国は、中華人民共和国、ソ連との密接な関係を強化しました。世界のすべての進歩的諸国が、自己の自主権と繁栄する生活のための朝鮮民主主義人民共和国の決死戦を支持しました。

朝鮮戦争で勝利した後、金日成主席の指導のもとに朝鮮民主主義人民共和国は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカの多くの国との親善関係を急速に拡大していきました。

第三の時期に多くの国との貿易および文化交流が、活発に、幅広くおこなわれ、経済生産が成長しました。

1960 年代と 1970 年代に朝鮮民主主義人民共和国の経済が、南朝鮮経済よりはるかに発展していたというのは疑う余地がありません。

金日成主席は、抗日革命闘争の初期から逝去する最期の瞬間まで人民のために大きな努力を傾注しました。

金日成主席にとって対外関係は、友好的で進歩的な諸国との相互関係の強化

と固い支持でありました。

第四の時期は、金日成主席が自身の生涯の時期におこなった他国にたいする訪問です。

今回のセミナーでは、第四の時期に中心を置きたいと思います。

1975年の外国訪問

1975年4月、金日成主席は中国にたいする公式訪問をおこないました。

訪問期間、金日成主席は、毛沢東と対面して朝鮮と中国人民間の緊密な協力について強調しました。

1975年5月、金日成主席は、ルーマニア社会主義共和国にたいする公式訪問をおこなってニコラエ・チャウシェスク大統領と対面し、朝鮮民主主義人民共和国とルーマニア社会主義共和国との友好および協力に関する合意書に署名しました。

1975年5月末、金日成主席はアルジェリア民主主義人民共和国にたいする公式訪問をおこない、訪問期間、ウアリ・ブーメディアン大統領と接見しました。

金日成主席は演説で、朝鮮民主主義人民共和国とアルジェリア民主主義人民共和国は同志的關係を結んでおり、両国間の關係は固い友好と連帯に基づいていると述べています。

アルジェリアでは、両国間の科学技術分野におけるより早い協力を希望して、金日成主席にアルジェ総合大学の博士学位を授与しました。

1975年6月、金日成主席はブルガリア人民共和国にたいする公式訪問をおこなってトドル・ジフコフ元首と接見しました。

金日成主席は、熱烈に歓迎してくれたことについてブルガリア人民に謝意を表し、朝鮮人民とブルガリア人民間の友好關係を強化発展させることについて述べました。朝鮮戦争後、ブルガリア政府と人民は、朝鮮民主主義人民共和国における復旧建設に多くの援助を与えました。

1975年6月、金日成主席はユーゴスラビア社会主義連邦共和国にたいする公式訪問をおこなってヨシップ・ブロズ・チトー大統領と対面しました。

これは金日成主席のユーゴスラビアにたいする最初の訪問でありました。

金日成主席は反帝反ファッショ武装闘争伝統の重要性について強調しました。

また金日成主席は、ユーゴスラビアが非同盟政策を追求することは、朝鮮民主主義人民共和国の基本原則の一つである対外關係における自主權を守る上でモデルになると述べました。

1984年5月から7月のソ連とヨーロッパにたいする長距離訪問

1984年に金日成主席は、ソ連とポーランド人民共和国、ドイツ民主主義共和国、チェコスロバキア社会主義共和国、ハンガリー人民共和国、ユーゴスラビア社会主義連邦共和国、ブルガリア人民共和国、ルーマニア社会主義共和国にたいする公式訪問をおこないました。

ソ連訪問の過程に金日成主席は、モスクワのクレムリンで共産党総書記コンスタンチン・ウスチノヴィチ・チェルネンコと接見しました。

金日成主席は、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の旗のもとに朝鮮とソ連の共産主義者と人民は帝国主義侵略と植民地抑圧に反対して長い間、肩を組んで戦ってきましたし、社会主義、共産主義偉業の勝利のために互いに密接に支持し協力してきたと述べました。

ポーランド人民共和国で金日成主席は、ヴォイチェフ・ヤルゼルスキと接見しました。金日成主席は、ポーランドにたいする今回の訪問を通じて、両国の党と政府、そして人民間の友好と連帯を強めるようになったことを朝鮮の友人たちは嬉しく思うと述べました。

次に、金日成主席が公式的に親善訪問した国は、ドイツ民主主義共和国でした。ドイツ民主主義人民共和国国家理事会委員長エーリッヒ・ホーネッカーと接見した金日成主席は、朝鮮とドイツ民主主義共和国は地理的に遠く離れていますが、長い間、同志的な友好関係を結んでおり、その時から互いに密接に協力してきたと述べました。

金日成主席は、ドイツを離れてチェコスロバキアにたいする公式的な友好訪問の道を歩み続けてチェコスロバキア大統領グスタフ・フサークと接見しました。

金日成主席は1973年6月にあったグスタフ・フサーク氏の朝鮮民主主義人民共和国にたいする訪問は、同志的な相互感情の噴出であり、同志愛を深いものにし、両国間の関係発展に一つの新たな里程標をもたらしたと述べました。

ハンガリー人民共和国を訪問した金日成主席は、ヤーノシュ・カーダール氏との接見席上で、社会主義下で変貌したハンガリーの新たな姿は自分に大きな印象を与えた、朝鮮とハンガリー間の友好と連帯が歴史の流れと両国人民間の関心の中で引き続き強化発展されたと述べました。

1984年6月、金日成主席はユーゴスラビア社会主義連邦共和国を公式親善訪問してユーゴスラビア大統領ベセリン・ジュラノビッチと接見しました。

金日成主席は、自分が9年前にユーゴスラビアを訪問し、ヨシップ・ブロズ・チトー氏と接見したことについて述べながら、非同盟国家は植民地主義の所産

であり、帝国主義者の搾取と略奪の手段である古い国際経済秩序を打ち壊し、新しく公正な国際経済秩序を樹立するという決心をもって互いに固く団結して戦わなければならないと述べました。

1984年6月中旬、金日成主席は、ブルガリア人民共和国を公式親善訪問して自身の長い間の友人であるトドル・ジフコフ元首と接見しました。

宴会でおこなった演説で、金日成主席は、ブルガリアを訪問する度に自身と朝鮮人民にたいするトドル・ジフコフ元首とブルガリア人民の例外的な親切と親交を心から感じていると述べました。金日成主席は親しい友人には千里も咫尺であるという言葉があると述べました。

ブルガリアを訪問した後、金日成主席はルーマニア社会主義共和国を公式親善訪問してニコラエ・チャウシェスク大統領と対面しました。金日成主席は、朝鮮とルーマニアとの友好関係はニコラエ・チャウシェスク大統領と自身との深い親交関係とともに、平和と社会主義、共産主義の勝利のために共同でたたかっている両国人民の深い兄弟的感情にもとづいた関係であると述べました。

金日成主席が一生積み上げた業績は、ほとんどの大陸での固い友好および協力にもとづいた幅広くて集中的な国際関係を反映しています。対外関係の発展に積み上げた努力と献身的な態度によって、金日成主席は高い国際的尊敬と支持を受けており、朝鮮は帝国主義と抑圧、侵略に反対する上で重要な役割を果たしました。

対外関係で金日成主席は、平和と親善、連帯の正義の偉業に自分の一生をささげました。